

地域の豊かな自然を守る地方銀行

企画調査部 副調査役 橋本 晃太郎

- 日本の各地域では、自然が人々の暮らしを支えています。地方銀行は、地域を経営基盤とする金融機関として、「自然」という貴重な地域資源を守るため、様々な取り組みを行っています。
- その中で、今回のレポートでは、肥後銀行における地下水保全等の取り組みと、鳥取銀行における生物多様性保全等の取り組みについてご紹介します！

はじめに

私たちの暮らしや仕事は、動物、植物、水、土壌、大気、鉱物等の資源（「自然資本」と言います）から生み出される恵み（「生態系サービス」と言います）によって、成り立っています。生態系サービスは、例えば、きれいな空気、飲み水、米・野菜・肉・魚といった食料など、日々、私たちが当たり前に関わっているものです。

ところが、現在、世界的な人口増加や経済開発の進展によって、自然資本が失われつつあり、その保全と回復が世界共通の課題となっています。2022年に開催された生物多様性条約第15回締約国会議（COP15）において採択され

た「昆明・モントリオール生物多様性枠組」では、2030年までに達成すべきミッションとして「ネイチャーポジティブ」¹が掲げられました。

わが国においても、2023年に「生物多様性国家戦略2023-2030」が閣議決定され、2030年のネイチャーポジティブの実現に向けた取り組みが進められています。

こうした中、地方銀行は、地域とともに歩む金融機関として、地元の地方自治体等と連携しながら、引き続きその地域が生態系サービスを楽しむとともに、持続的に発展していくための仕組みづくり等に取り組んでいます。

肥後銀行の取り組み

「水の国くまもと」

熊本県は「水の国」と呼ばれていることを知っていますか？

これには「阿蘇山」が大きく関係しています。過去4度の噴火で降り積もった火山灰によって、土壌は柔らかく、スポンジのような役割を果たして、阿蘇山のふもとで水が蓄えられ、それが地下水となって平野部に流れ込んでいるのです。熊本県には、1,000か所以上の湧水があると言われていますが、そのうちの8か所が環境省の名水百選（「昭和の名水百選」、「平成の名水百選」）に選定されており、富山県とともに全国最多となっています。熊本県の中でも、**肥後銀行**の本店がある熊本市では、水道水の

100%が地下水で賄われており、2013年に国連「生命の水」最優秀賞を受賞するなど、世界でも有数の「地下水都市」として知られています。

熊本県の豊かな地下水資源は県民の誇りとなっています。肥後銀行は、この大切な自然資本を守り・育むために、1987年、熊本県と地元新聞社の協力を得て「肥後の水資源愛護賞」を創設し、1992年には、さらに活動を本格化させるため「（財）肥後の水資源愛護基金（現・（公財）肥後の水とみどりの愛護基金）」を設立し、阿蘇地域における広葉樹の森づくりや放棄された棚田の再生、草原の保全など、様々な地下水保全活動を行っています。

地域の地下水を守る！

肥後銀行における最近の取り組みの1つとして、2025年3月、熊本県立大学、熊本大学等とともに始動した「熊本ウォーターポジティブ・アクション」があります。

熊本県では、半導体産業の集積により、雇用創出や地域経済活性化、人口増加等が期待されています。その一方で、これまで田畑だったところに大規模な工場や住宅等が建設されています。こうした土地開発によって、雨水が浸透す

る面積が減り、地下水涵養量²の減少や水災リスクの高まり等が懸念されています。

「熊本ウォーターポジティブ・アクション」は、熊本地域で雨庭（あめにわ）等のグリーンインフラ³を設置し、土地開発による地下水保全へのネガティブな影響を上回るポジティブな影響を生み出そうというものです。

雨庭は、地上に降った雨水を一時的に貯め置き、地中に



ゆっくり浸透させるための庭であり、地下水を育むだけでなく、生物多様性を守り、景観を改善するなど、多くの効果が期待されています。

肥後銀行は、取引先企業に対し、雨庭設置の提案を進めるとともに、新しい金融手法の研究開発にも取り組んでいく予定です。

例えば、①企業等が設置した雨庭について、その地下水涵養量を評価する第三者機関を設置し、その第三者機関が個々の雨庭の地下水涵養量を証明する、②工場建設等を行う土地開発者は、雨庭を設置した企業等に対して、雨庭の設置・管理費用を支援する、③土地開発者は、その支援の見返りとして、第三者機関が発行する証明書を受け取る、といったことが想定されています。このような仕組みにより、土地開発者は地下水保全に貢献でき、雨庭を設置した企業等は、雨庭の設置・管理費用の支援を受けることができます。雨庭の設置者や土地開発者は、ともに貴重な地域資源である水への配慮の姿勢を示すことができるほか、地



▲熊本県立南稜高校の雨庭（第1回くまもと雨庭パートナーシップ雨庭表彰 大賞）。肥後銀行提供。

水害から地域を守る！

この雨庭は、治水対策の面でも注目されています。アスファルトに降った雨水は、雨どいや排水管を通してそのまま川に流れ込んでしまいましたが、前述のとおり、雨庭を設置すると、雨水を一時的に貯め置き、ゆっくりと地中に浸透させることができるため、水害予防効果があると言われています。

もともと、肥後銀行が雨庭に注目したきっかけは、球磨川（くまがわ）流域を対象とした「緑の流域治水プロジェクト」でした。「令和2年7月豪雨」により、球磨川流域で土砂崩れや河川氾濫が生じ、ダムや堤防等の従来の治水対策では対応しきれない災害が発生しました。災害からの復興にあたり、川の流域の土地に雨庭等を設置し、流域から川への水の流出を抑える研究が進められています。

海の生物多様性を守る！

肥後銀行の活動は水資源の保全にとどまりません。生物多様性保全の観点から、八代海に面する芦北町のアマモ場の再生もサポートしています。



◀「海のゆりかご」と呼ばれるアマモ。肥後銀行提供。

域社会・住民としても、水という自然資本の保全・回復の効果を享受することができるというものです。

肥後銀行は、このプロジェクトに幹事機関として参加し、雨庭等の普及に取り組むほか、災害後も安全・安心に住み続けられ、若者が残り・集う持続可能な地域を目指して、サステナブルな産業創生（観光産業の創出、脱炭素・再エネ事業の創出、地域発ベンチャーの創出等）にも取り組んでいます。

このプロジェクトと関連して、2023年に「くまもと雨庭パートナーシップ」が設立され、「2030年までに2030か所の雨庭を整備する」ことを目標として、雨庭認定⁴等の普及活動を行っています。肥後銀行もこのパートナーシップに参加し、SDGs関連融資商品の金利優遇条件として「雨庭認定」を加えるなど、取引先企業の雨庭設置を後押しするための仕組みを構築しています。

アマモは海草の一種で、魚やイカ、エビ等の産卵場所や稚魚等の育成場所にもなるため、「海のゆりかご」と呼ばれています。2003年、熊本県立芦北高校は、漁獲量の減少に悩む芦北町漁業協同組合より相談を受け、アマモ場の調査および再生活動を始めました。研究を進める中で、林業科ならではの実践力や知識をもとに、アマモの種子を効率的に散布する独自の手法等を編み出し、現在に至るまでアマモ場の再生活動を続けています。

肥後銀行は、この取り組みをサポートするため、（公財）肥後の水とみどりの愛護基金や大手ゼネコンの鹿島建設(株)

とともに、2024年に芦北町、芦北町漁業協同組合、芦北高校との間で「芦北地域におけるアマモ場等の再生に関する連携協定」を締結しました。2025年3月には、この協定に基づき、Jブルークレジット^{®5}の認証を取得しています。これは、アマモが光合成によって海中に溶け込んだCO₂を体内に吸収し、枯死後も海底への堆積等で炭素を貯留するという点（ブルーカーボン）に着目したもので、熊本県初の事例です。

認証の取得にあたり、肥後銀行は同愛護基金とともに、芦北高校に足繁く通い、生徒や先生が自力でJブルークレジット[®]の申請手続きを行えるように、鹿島建設(株)の研究者の技術アドバイスのもと、申請のノウハウを提供しました。同行は、「Jブルークレジット[®]の申請手続きは難しく、通常はコンサルティング会社に依頼するが、持続的な取り組みとするため、地元の関係者で申請手続きが完結する仕組みをつくりたかった」としています。

今後、肥後銀行では、Jブルークレジット[®]の販売支援に取り組む予定です。同行によれば、「敢えてクレジットを小口化することで、熊本県にゆかりのあるたくさんの中小



▲アマモ場の保全活動の様子。肥後銀行提供。

企業等に購入してもらい、その会社の従業員の方、そのご家族の方と地域を結びつけ、地域の自然保全の応援団を増やし、関係人口⁶化していきたい」とのことです。また、「肥後銀行のパーパス（存在意義）に『地域の産業や自然・文化を育て、守り、引き継ぐことで、地域の未来を創造していく』とあるとおり、自然資本を保全し、回復させることにより、地域活性化につなげていきたい」と今後の抱負を語っています。

地元自治体の声

阿蘇の草原や有明海の干潟など、多くの自然に恵まれた熊本県は、2011年に「生物多様性くまもと戦略」を策定し、生物多様性の保全に取り組んでいます。2023年に改定された「生物多様性くまもと戦略2030」には、肥後銀行が幹事機関を務める「緑の流域治水プロジェクト」も取りあげられています。熊本県の担当者は、「雨庭の普及には、その付加価値のアピールが重要であり、銀行の担当者の肌感覚が生きる」と今後の取り組みに期待を寄せています。また、肥後銀行の取り組みに関し、「行政の手が届きにくい部分をサポートしていただいております。大変助かっている。肥後銀行が民間企業と連携して

取り組んでくれていることは、非常にありがたい」と話します。

熊本市は、2016年に策定した第1次戦略を改定し、2024年に「第2次熊本市生物多様性戦略」を策定しました。肥後銀行は、2023年度に熊本市生物多様性推進会議の委員に就任し、戦略改定の議論に関わりました。熊本市の担当者は、「肥後銀行には水保全活動をはじめ、熊本市政に多大な協力をいただいている。生物多様性に積極的に取り組む企業の立場、事業者の状況に精通する金融機関の立場から、引き続きネイチャーポジティブに向けた意見・助言をいただきたい」と話します。

鳥取銀行の取り組み

鳥取県と聞くと、どのような風景を思い浮かべますか？東西16km南北2.4kmにわたる広大な「鳥取砂丘」、神の宿る山として古くから人々の信仰を集めてきた霊峰で中国地方最高峰（標高1,709m）を誇る「大山」、日本海の豊かな漁場

地域の絶滅危惧種を守る！

鳥取銀行は、2023年に鳥取県と締結した「生物多様性保全活動に関するマッチング業務に関する契約」⁷に基づき、その第1号案件として、2024年3月、田中工業(株)（建設業者）と余戸地区ウスイロヒョウモンモドキ保護の会（自然

を抱き松葉ガニの水揚げでも有名な「境港」など、自然豊かな風景が思い浮かぶのではないのでしょうか？

鳥取銀行は、地元地域の豊かな自然資本を守るために、様々な取り組みを進めています。

保護団体）とのマッチングを行いました。

ウスイロヒョウモンモドキは、中国山地を中心に分布する絶滅危惧種の蝶です。以前は、中国山地に広く分布していましたが、ニホンジカの食害に遭い、幼虫の食草となるオ



▲ ウスイロヒョウモンモドキ。
鳥取銀行提供。

ミナエシヤカノコソウが減少したこと等によって、生息地・生息数が減少し、現在、鳥取県においては、鳥取市佐治町のみが生息地となっています（なお、鳥取市佐治町は日本有数の星空がきれいな町としても有名です）。

鳥取銀行は、取引先である田中工業㈱が環境問題に高い関心を持っていたことから、鳥取県の担当者とともに同社を訪問。地元の自然保護団体への支援を相談したところ、田中工業㈱の関係者が余戸地区にゆかりがあったことなどから、田中工業㈱と余戸地区ウスイロヒョウモンモドキ保護の会とのマッチングが成立しました。同行によれば、「鳥取県の担当者の方も、『少しでも興味を持ってくれる企業があれば一緒に訪問して説明します』と非常に熱心に取り組まれており、このような県との協力体制が今回のマッチングにつながった」とのことです。

今回のマッチングにより、田中工業㈱は、余戸地区ウスイロヒョウモンモドキ保護の会が実施する保全活動に参加

県産ジビエで地域活性化！

鳥取銀行による自然資本保全の取り組みはこれだけにとどまりません。鳥取県では、野生の二ホンジカが急増したことで、山の草木や田畑の農作物が食い荒らされるなど、大きな被害が発生していました。このため、鳥取県や各地方自治体では、奨励金を設け、猟友会等が駆除を行っていましたが、その際に駆除された個体については、猟師が自身で持ち帰る以外は、山に埋められたり、焼却場等で処分されたりしていました。

ここに着目したのが鳥取銀行です。同行は、「これらの野生生物を駆除するだけでなく、ジビエとして加工・販売し、地域の新たな産業へと成長させ、地域活性化につなげることができないか」と考えました。そこで、2016年に三

し、①シカ侵入防護ネットの設置・点検、②食草・吸蜜草の栽培圃場の整備、③登山道の維持・管理等の支援を行っています。2024年度中は、春・夏・秋と3回保全活動が行われましたが、田中工業㈱とともに、鳥取銀行からもボランティアで15名の行員が参加しました。

同行は、「今回のマッチングによって生物多様性の考え方が拡がり、県内の保全活動が活性化することで、豊かな自然資本が守られることを願う。生物多様性保全の取り組みが持続可能な地域の未来につながっていくことを期待している」としています。



▲ 第1回保護活動の様子。鳥取銀行提供。

菱東京ＵＦＪ銀行（現・三菱ＵＦＪ銀行）との間で「地方創生に関する包括連携協定」を締結し、ジビエ活用を推進してきました。資源として「食べる」ことによって、山を守り、地元の産業化にもつなげていこうという発想です。

鳥取銀行は、鳥取県と地元関係者の連携・調整を図りながら、「駆除から利活用へ」、「安心で、おいしいお肉へ」、「販路拡大」を目指して活動してきました。

まず、「駆除から利活用へ」の取り組みとして、遠隔地で捕獲されたジビエの品質を低下させずに迅速に運び、安全に保管するための保冷車・冷蔵庫の導入に向け、融資という形で支援しました。

また、「安心で、おいしいお肉へ」の取り組みとして、同行が主導して鳥取県と連携し、鳥取県東部の若桜町にある「わかさ29（にく）工房」の鳥取県のH A C C P 適合施設認定⁸の取得を支援しました。

さらに、「販路拡大」の取り組みとして、三菱ＵＦＪ銀行のネットワークを活用し、都市部の大手バイヤーとのビジネスマッチングを実施したほか、鳥取県と連携して、ジビエ肉のブランドイメージを高めるために、東京の高級レストランのシェフへの働きかけも行いました。このような取り組みにより、ジビエの需要も高まり、鳥取県の二ホンジ

カ等の供給量も増えています。

鳥取県におけるジビエ推進の動きとして、2012年に鳥取県東部の「いなばのジビエ推進協議会」が、2018年に鳥取県西部の「ほうきのジビエ推進協議会」が、それぞれ設立されています。これによって、鳥取県全域の取り組みへと拡大していったことから、鳥取銀行としてのジビエ推進活動は一旦終了しました。同行は、「『とっとりジビエ』のブランド化と魅力的な地域資源としての認知拡大を願って、引き続き活動を応援していきたい」としています。



▲ ジビエの産業化支援の様子。鳥取銀行提供。

おわりに

地方銀行が本店を置く各地域は、それぞれ豊かな自然を有しており、その損失が進むことによる社会的・経済的な影響は大きく、計り知れないものです。

それぞれの地域の宝である自然を保全・回復させ、将来にわたって守っていくためには、地元の地方自治体・事業者・住民、そして地方銀行といった地域の関係者が一丸となり、協力し合いながら、「持続可能な地域社会を創りあげていく」という強い信念を持って取り組んでいくことが重要なのではないのでしょうか？

地方銀行では、今後も地元の地方自治体等との連携を深め

つつ、引き続き地域の自然の保全・回復に向けて取り組んでまいります。是非、これからの地方銀行の取り組みにご注目ください。

なお、当協会ウェブサイトでも、「地方銀行における環境・気候変動問題への取り組み」として、気候変動問題に加え、自然資本や生物多様性への取り組みの発信も行っていますので、ご覧いただければ幸いです（https://www.chiginkyo.or.jp/regional_banks/initiative/environment/）。

地元自治体の声

鳥取県は、2020年に「鳥取県生物多様性地域戦略」を策定し、生物多様性の保全に取り組んでいます。

鳥取県の担当者は、鳥取銀行の生物多様性保全のマッチングの取り組みについて、「まだまだ支援を求めている自然保護団体があるので、鳥取銀行には民間企業との深いつながりを活かして、引き続き民間企業と自然保護団体をつなぐ役割を担ってほしい」、「生物多様性については、自治体が抱える他の重要課題と比べると、県民の関心を高めることが難しい面があると感じている。地域金融機関の立場から、様々な機会に生物多様性の大切さを地域にPRしてもらえるとありがたい」と期待を寄せます。

また、ジビエ活用の取り組みについては、「ジビエの提供にあたっては、安心・安全が非常に重要。鳥取銀行の尽力で、わかさ29工房が県内でいち早く鳥取県のH A C C P 適合施設認定を取得でき、大変助かった」と話しています。

¹ 生物多様性の損失を止め、反転させ、回復軌道に乗せること。

² 降雨等が浸透し、地中に蓄えられる地下水の量のこと。

³ 社会資本整備や土地利用等に際して自然環境の持つ多様な機能を賢く利用する取り組み。

⁴ くまもと雨庭パートナーシップが雨庭の形状や集水方法、面積等を確認し、認定を行う仕組み。認定された雨庭は、本パートナーシップのホームページ等で公開するほか、優れた雨庭の表彰も行う。

⁵ Jブルークレジットは、海藻や海草等によるCO₂吸収量をクレジット化し、企業等に売却できる仕組み。企業は自社の排出量と相殺できることから、カーボンニュートラル実現の仕組みとして期待されている。

⁶ 移住者等の「定住人口」でもなく、観光客等の「交流人口」でもない、特定の地域に継続的に多様な形で関わる人々のことを指す。

⁷ 鳥取銀行が鳥取県に対し、生物多様性の保全に関心をもつ民間企業（同行の取引先）を紹介・マッチングすることを内容とするもの。鳥取県が、鳥取銀行が紹介する当該民間企業と自然保護団体をつなぎ、当該民間企業は当該自然保護団体の活動に関して、人的・資金的な支援を行っていくことが想定されている。

⁸ H A C C P（Hazard Analysis and Critical Control Point）は国際的に認められた食品安全管理システムであり、食品製造工程における潜在的な危害要因を分析し、重要管理点を特定・管理することで食品の安全性を確保する仕組み。

